

総合基礎科目	人間と社会「芸術とコミュニケーション」					
看護学科	選択	1単位	演習	平成30年度	後期	2～4年次
臨床検査学科	選択					
科目名	生命と芸術実践演習Ⅷ（複合コミュニケーション表現B） Lives and Art Practice Exercises (Media Arts and Communication B)					
担当教員	◎中脇 健児 藪内都					
目的	<p><「人と関わる」を仕事にするって何？></p> <p>「人と関わる」を仕事にすることは、「一人一人ちがっていい」と「みんなで一つになる」の「間」で、常に自分自身が揺れることを受け入れるところから始まります。黒と白は一つずつですが、グレーというグラデーションは無限にあるからです。ワークショップは“関わり合い”が重要なので、無限のグレーの中で揺れざるをえません。ワークショップに関わると、「私は「間」のどこにいるか」という問いかけが自然と始まり、「人と関わる」経験として、これは中々いいエクササイズになるはずです。</p> <p>「私」と「他者」の「ちがい」や「おなじ」はなにか。そして「協働」とは何か。他者との関わりのみならず、自分の中の他者性(未知性)とも会いましょう。自分の中の知覚や価値観を揺らしながら、その振り幅自体も増やしていきましょう。</p> <p>頭でわかることもあれば、身体でわかることもある。その揺れや振り幅をどれだけ広いものにするか。それってけっこう今後の人生を豊かにしてくれます。</p>					
目標	<p>グループ制作を通して、「ちがい」と思っていたら「おなじ」だった。「おなじ」と思っていたら「ちがい」だった。「ない」と思っていたら「あった」。そんな知覚への揺さぶり、価値観の変換を促したいと思います。</p>					
他科目との関連						
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	レポート	授業全回を通しての振り返りと提示する課題について記入				0.3
	記録等	授業感想ノート				0.2
	その他	授業参加度				0.5
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書						
参考資料						
備考 (受講上注意、 事前学習等)						